

# 平成 28 年度 学校自己評価システムシート (大妻嵐山中学校・高等学校)

目指す学校像	○「世界につながる科学的素養を育て、表現する力」を育てるGlobal Eco Science School ○建学の精神「学芸を修めて人類のために」貢献できる高い意識と学力を身につけた女性を育成する学校 ○大妻コタカ先生の教育理念に基づいた人格の陶冶をめざす学校	※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。
重点目標	1 世界につながる科学的素養を育てる 2 世界につながる表現する力を育てる 3 世界につながる心と感性を育てる 4 世界につながる進学力を育てる 5 組織的な広報活動を展開し学校の魅力を伝え、入学者を確保する	達成度 A ほぼ達成 (80%以上) B 概ね達成 (60%以上) C 変化の兆し (40%以上) D 不十分 (40%以下)

出席者
第三者評価委員 4名
学校関係者評価委員 2名
事務局 (教職員) 8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する) は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標			年 度 評 価					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1. 2	*世界につながる科学的素養を育てる。 *世界につながる表現する力を育てる。 ○中期経営計画に基づいて、学力を向上させる必要がある。 ○これから求められる力の育成を意識した授業を展開する必要がある。 ○引き続き、自学自習力を育成し生徒の家庭学習時間を増加させる必要がある。	○学力の向上	○定期考査、外部模試、学力アセスメントなど客観テストの分析とそれに基づいた授業展開。 ○中学におけるQQイングリッシュの導入 ○年間を通した英語の授業研究の実施。 ○英検・GTEC・読解力テスト・TOEIC等に挑戦させる。 ○年間を通したアクティブラーニング研修の実施。 ○定期的な教科主任会・学年主任会による学力向上のための情報共有と組織的な取組。 ○授業改善のために管理職による授業観察、保護者等への公開授業、生徒の授業評価の実施。 ○授業力向上のための授業の相互見学と各教科での研究協議の実施。 ○中学校における定期的な学力アセスメントの実施。 ○ベネッセと連携した全生徒の個人成績変移カルテを作成。	○模試、学力アセスメント等の客観テストの数値が向上したか。 ○英検の取得率が向上したか。 ○中学生の英語力が客観テストで向上したか。 ○生徒による授業評価が向上したか。 ○家庭学習時間を増やすことができたか。	○模試等結果 (国数英) の推移では、個別に若干の伸びがみられる教科はあるが、中高とも大きく伸びたと言える数値は見られていない。 ○英語指導については、年間を通じてワラビ英会話を実施。生徒からは好評である。また、昨年度に引き続き、英語教育を専門としている大学教授の指導による英語授業改善の取組を実施した。 ○今年度の英検取得率 (中学) 3級43.1% (3年は65.3%) 準2級14.7% (3年は22.4%) ※前年度 3級53.6% (3年は89.5%) 準2級17.9% (3年は47.4%) (高校) 準2級40.1% (1年31.3% 2年44.9% 3年45.1%) 2級8.9% (3年は13.6%) 準1級2名 (2・3年各1) ※前年度 準2級38.8% (1年23.9% 2年30.5% 3年60.5%) 2級7.8% (3年は12.1%) 準1級1名 (2年) ○従来の校内英語スピーチコンテストをイングリッシュフェスティバルと銘打って、中学1、2年が英語劇を、中学3年が英語プレゼンテーションを実施した。 ○アクティブラーニング研修は計画的に7回実施し、それに基づいた校内授業研究を実施した。また、授業づくりの基本方針を全教員で共有し、授業改善への意識統一を図った。なお、本校での取組状況を3/26に東京大学で行われる研究会で発表することになった。 ○生徒による授業評価は7月に実施し、各教員に結果を配布し、授業改善を促した。 ○家庭学習時間はあまり改善されていない状況で、課題がある。 ○中学1年で英語・数学で学力不振の生徒に対する少人数クラスによる指導を実施し、英語では一定の成果が見られている。	B	・学力データを効果的な方策に結びつける努力を引き続き行う必要がある。各教科がデータ分析に基づいた方策を定期的に作成していく体制が必要である。また、基礎力向上のために学力差に対応した取組を引き続き行っていく。 ・来年度から実施の本校の新教育課程を円滑に進めるために、授業づくりの共通方針に沿って、各教科が不断に授業改善を行っていく。また、11月に実施予定の外部に向けての公開授業・研究協議会で、一定の成果が見えるようにする。 ・家庭学習時間は依然として課題である。生徒への意識喚起だけでなく、増やさざるを得ない授業づくりなども必要である。 ・新教育課程で増加する英語の授業の一層の改善、ワラビ英会話の拡充を進める。また、中1から高1までタブレットを持たせ、電子黒板とともにICTを活用した学習を押し進める。	・学力分析データの前に、家庭学習時間の確保が急務と考えられる。他校が行っているように、放課後の学習時間を必修にするなどの方策はないのだろうか。 ・タブレット端末の効果に期待したい。 ・知って、考えることが重要。方向性は正しいと思う。 ・英検取得率は中学生こそやや低下したが、高校生は全学年とも上がっている上に、国際交流 (留学) も増えていることから、必ず成果は上がるものと期待している。 ・夏季休業中の補習、ひよこプログラムなど、先生方のご努力に頭の下がる思いである。成果も上がっているようで、素晴らしい取組である。 ・ICTを活用した学習にも期待している。 ・家庭学習は、時間より質を重視する。 ・アクティブラーニングの取組は高く評価できる。今後も授業改善を進め、生徒の学力向上を図ってほしい。
3	*世界につながる心と感性を育てる。 ○校訓を生かした指導の充実が必要。 ○生徒の視野を広げる取組が必要。 ○校内での挨拶指導の徹底、通学路やスクールパス内での挨拶マナーの向上が必要。 ○SNSの指導徹底が必要。	○自律心と自主性の育成 ○他者と協働できる力の育成	○全教職員による挨拶の励行、身だしなみ指導、時間厳守指導の日常的な実施。 ○定期的な礼法指導の実施。 ○大妻コタカ先生の言行録による道德教育の徹底。 ○人格形成のための定期的な論語教育の実施。 ○生徒の良さを見出し、励ます取組の実施 ○他の大妻付属校との生徒会交流の実施。 ○SNSに対する講話の実施と本校メディアポリシーの徹底した指導。	○他を思いやる心が育って、生徒が穏やかな生活を送っているか。 ○校内外での挨拶が日常的にできるようになっているか。 ○生徒会活動・学校行事が活性化できたか。 ○SNSに対する指導が浸透したか。	○生徒は概ね穏やかに生活を送っている。また、定期的に生活アンケートを実施し、生徒の実態把握、問題への早期対応に努めた。 ○今年度、生徒の感性を育むために、大妻講堂での中学生の音楽祭、有志による演奏会「嵐山カケル」を実施した。 ○挨拶はよくするようにしている。地域の合同挨拶運動に生徒会役員が定期的に参加し、登校時に声掛けを行っている。 ○大妻付属5校生徒会による大妻NORTHの取組に積極的に参加し、発展途上に学校をつくるという目標を立てて交流活動を積極的に行ってきた。 ○SNSに対する指導は専門家による講話を実施し、また、様々な機会をとりえて指導を行い、生徒の意識喚起を行ってきた。概ね規律を守っているが、理解の浅い生徒も若干いる。	A	・引き続き、大妻コタカ先生の教えに基づく人間形成のための教育を一層推し進めていく。 ・大妻NORTHの活動に一層積極的に取り組み、嵐山生が自信と誇りを持つよう指導していく。 ・SNSの指導は引き続き徹底していく必要がある。保護者と連携してトラブル防止に努めていく。 ・来年度も引き続き、生徒の心と感性を育む取組を実施し、校内に落ち着いた雰囲気醸成を促していく。	・校長先生のお話の中に、コタカ先生の考えが盛り込まれ、生徒にも浸透しやすいように思う。 ・一人一人の生徒と向き合ってほしい。 ・大妻卒業生らしさとは何かを前面に押し出されてはいいかがでしょうか。 ・大妻ブランドを大事にした教育を一層推進してほしい。 ・進路相談以外の日常の教育相談を大事にしながら、生徒との信頼関係を一層深めていただきたい。 ・教師と生徒間の対話を増やす具体的方策を考えていただければと思う。 ・「世界とつながる○○」のスローガンの下、教育内容が明確で大妻らしい人格教育である。論語等多様な教育を取り入れていることを評価する。
4	*世界につながる進学力を育てる。 ○生徒が自らの進路を主体的に考えようとする姿勢を持ち、そのための力をつけていく必要がある。 ○キャリア教育の系統的実施をすすめる必要がある。	○生徒の主体的な進路意識の醸成 ○教員の進路指導力の向上	○生徒の学力分析に基づいた進路指導体制の確立。 ○これまでの取組を見直し、系統性が見えるキャリア教育計画の策定。 ○生徒の進路意識を啓発する大学教授・地域の専門家等の授業・講演会の実施 ○進路指導部のリーダーシップによるきめ細かな進路指導の継続 ○大学入試問題研究冊子の作成。 ○計画的で、組織的な生徒面談の実施。 ○進路の手引き作成と活用 ○学習の手引き (中学) の作成と活用 ○海外留学・進学を一層進めるための在学中の支援体制と仕組みの一層の整備。	○系統性が見えるキャリア教育計画が策定され、実施できたか。 ○組織的な進路指導がなされたか。 ○進学実績が向上したか。(難関国公立・国立医学部3名、国公立20名以上、早慶上理40名以上、GMARCH50名以上の合格者) ○生徒個人カルテを指導にいかすことができたか。 ○海外留学生、進学者が増加したか。	○グローバルエコインス学校推進方針に基づく教育活動の再編成により、進路指導、キャリア教育の内容等を整理した。 ○学力推移のデータ共有は行ってきたが、データを効果的な方策に結びつける点で課題がある。 ○学習指導、進路指導の効果を測る指標として新たにジェリックス測定テスト (学びみらいPASS) を実施し、生徒、教員へのフィードバックを行った。 ○2/25現在の合格実績 (主な大学) ・国公立1 (県立大) ・上智1、慶応1 ・GMARCH11 ・日東駒専13 ・成成明国武16 ・女子大28 ・大妻女子大56 (うち内部進学47 短大除く) ・薬学部7 ・看護・福祉17 ・理工農系4 ○ベネッセのClassiで学力データ等を管理しているが、活用に課題がある。 ○海外大学進学者は出ていない。留学支援のための前段階として海外研修の機会を増やした。	B	・引き続き、生徒が自らの力をきちんと把握し、主体的に進路設計ができる力をつける必要がある。そのためには、模試等の学力分析を全校で共有し、学年任せではなく学校全体で指導改善を行っていく体制を作っていく。 ・グローバルエコインスの方針に基づく4つの力の育成に沿って、進路指導、キャリア教育の各取組のねらいを明確にして実施していく。 ・今年度増やした海外研修の内容を一層充実させ、留学支援、海外からの受け入れ体制の整備を図っていく。また、新高1の海外修学旅行が成果あるものになるよう準備を整える。	・学習時間を確保する意識づけをまず学校で行っていただきたい。 ・海外研修については、成果を期待したい。 ・進路・学習指導部からだされている平成29年度の「重点項目」の今後の具体的な方策で、将来に向けてあげられている各項目の内容が徹底されることを期待する。 ・大妻嵐山の授業づくり共通方針、英語科のプラットフォーム、素晴らしいと思う。計画→実践の年です。着実な実践を！ ・海外大学への進学者を出せるよう、指導に力を入れてください。生徒に新たなロールモデルを示せると良いと思う。 ・進学というと、どうしても定量評価が目ざらぬ。しかし、大学進学は手段であって目的ではない。将来○○するために大学に進学するの長いスパンでのキャリア教育が必要であり、結局、生き方→広い意味でのキャリアを考えることが、勉強への意識づけとなる。
5	○地域との連携を一層充実させ、本校教育へのさらなる理解を得る必要がある。 ○本校が新たに進めようとしている特色を明確にして、アピールする必要がある。 ○引き続き、地域の中学校・塾との連携を一層深め、信頼関係をさらに強化する必要がある。	○全教職員一丸となった積極的な入試広報の実施 ○本校教育の特色の一層のアピール	○地域の小中学校との連携のための合同挨拶運動、ORキッズ開催、サイエンスラボなどの様々な取組の実施。 ○全教職員の目線を合わせた計画的な入試広報行事・活動の実施。 ○計画的な塾訪問の実施と情報収集。 ○学校のホームページのこまめな更新と内容のさらなる改善。 ○適時適切な内容での地域への広報活動の実施 (電車広告等)	○全教職員が一丸となって入試広報を行うことができたか。 ○中学50名高校180名の入学者が確保できたか。 ○ホームページの更新がこまめに行えたか。また、内容がアピール度の高いものになったか。 ○ホームページのアクセス数が増えたか。	○全教職員体制で説明会等のイベント、中学校訪問等を計画通り実施した。塾との連携の他にも、スポーツ、習い事教室などへの広報活動など、昨年度にはない工夫も行って来た。 ○中学入試の手続き者は42名で昨年度を上回った。高校入試では、単願志願者数は増えたが、併願志願者は昨年度より減った。なお、中学での思考力を問う新形態のみらい力入試は33名の志願者があり、初めてにしては受験者を確保できた。 ○ホームページは昨年度以上の更新がなされ、また、ALTのルーム開設するなど新たな工夫もなされた。 ○今年度新たにweb出願、webでの合格発表を導入し、入試業務の効率化を行った。	A	・引き続き、全教職員体制での生徒募集活動を行っていく。そのためには、教職員の意識統一、目線合わせをしっかりと行い、ぶれない活動を行っていく必要がある。 ・本校を知ってもらうための工夫改善を一層推し進め、広報対象・機会の開拓に努めていく。 ・地域行事への積極的な参加など、地域とのつながりを一層深めるよう努めていく。	・努力の成果が表れていると感じる。 ・校長先生をはじめ、職員に敬意を表します。嵐山町では、29年度から町おこしディレクターを1名採用、県から1名を受け入れ、地域活力創出拠点事業を始める。大妻中学高校も嵐山の貴重な財産であるという視点で、一層連携していかれたらと思う。 ・新たな入試方法に期待する。 ・校長的確かなリーダーシップの下、全教職員の意識改革を進めながら、オール嵐山で入試広報に取り組んできた成果が着々と表れている。